

平成 30 年度環境教育ネットワークミーティング開催レポート

■主催:静岡県 ■運営:NPO 法人ホールアース研究所

【東部会場】

- 日時:2018年11月9日(金) 13時~16時30分
- 会場:富士通株式会社沼津工場
- 人数:17名

【中部会場】

- 日時:2018年11月16日(金) 13時~16時30分
- 会場:静岡県庁別館21階展望ロビー
- 人数:18名

【西部会場】

- 日時:2018年10月25日(木) 13時~16時30分
- 会場:浜松市西部清掃工場
- 人数:12名

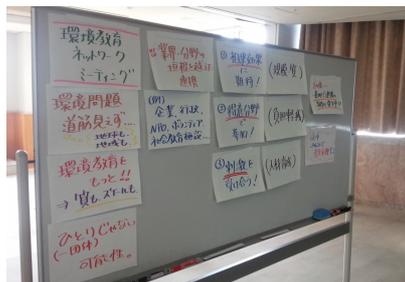
○内容

▼主催者挨拶（環境政策課より）

県内各地で、過去の本ミーティングを通じて出会った方同士が具体的な環境イベントを実施する等の動きが見られる。多様な主体が協働することで環境教育がより一層推進されることは非常に喜ばしい。今回も有意義なネットワーキングが進むことを期待する。

▼ねらいの共有

運営を担当するホールアース研究所が進行。ホワイトボードにキーワードを記した紙を貼り付けながら、連携は質・量双方の相乗効果が期待できることや、実施者の負担軽減、関係者の人材育成に繋がる可能性があることなどを再確認した。また、参加者の所属や氏名がわかるよう、全員に名札を作成してもらった。



▼自己紹介と会場施設の紹介

まずは、近くの席の参加者同士で簡単な自己紹介。会話が始めると緊張は徐々に解きほぐされ、会場の雰囲気は次第に明るくなっていった。その後は会場施設の紹介。それぞれ、施設担当者が思いを込めて紹介した。

▼プログラム

次は、それぞれの地区で準備された体験プログラムや事例発表など。東部は社有地のガイドウォーク、中部は環境活動の事例発表、西部は清掃工場見学とゴミ削減に関するミニ環境学習プログラムが行われた。

【東部地区】

富士通沼津工場にて実施。広大な里山環境の中に位置する立地特性を活かし、緑地の管理や活用において様々な工夫が見られた。雨模様だったため室内の時間も増やし、工場関係者と連携しながら、クイズ等も交えつつ工場緑地管理の工夫や思いが伝えられ、参加者は多くの刺激を受けることができた。



【中部地区】

中部地区は県庁別館にて実施。株式会社静鉄ストアと県地球温暖化防止活動推進センターより、環境活動に関する事例発表が行われた。静鉄ストアでは、子どもでも理解できる環境冊子を作成。自らの環境活動や消費者がすぐに実践できるヒントが、手に取りやすいデザインの手冊にまとめられていた。センターからは温暖化対策アプリ「クルポ」の紹介等があった。



【西部地区】

浜松市西部清掃工場にて実施。映像資料も活用しながら浜松市の廃棄物に関するレクチャーの後、スタッフの解説付きで、実際に工場を見学。その大きさとシステムに参加者の関心が寄せられた。また、併設されている学習用展示でも学びを深め、廃棄物対策の難しさと重要性を実感した。



▼ワークショップ

各地区とも、体験プログラムの後には「ふりかえり」を兼ねたワークショップを実施した。東部会場では工場緑地の活用可能性について議論。地域住民やNPOとの連携、各種イベントの実施等、多様な案が示された。中部会場では事例発表者への質問を軸に議論が展開。一定のコストもかかる環境対策に関する担当者の想



いなどが熱く語られる場面もあった。西部会場では工場見学後の感想と廃棄物問題に関する各自の考えが共有された。身近な環境問題の一つである廃棄物問題について、様々な角度からコメントが出された。

▼名刺交換会・交流会

今回も、時間が許す範囲内で自由な名刺交換の時間を設けた。各会場とも、活動紹介のパネルやイベントチラシ、団体紹介用パンフレット等をご準備くださった参加者がおり、具体的かつ有意義な情報交換がなされた。

▼事務連絡（今後に向けて）

まとめに、県庁環境政策課から、今後より一層の連携事例が創出されることへの期待が寄せられた。県が各地の環境学習イベントの告知等を支援する「環境学習フェスティバル」や地域のまつり・イベント、あるいは学校への出前授業等において、今回のつながりをきっかけに創り出された学習会等が、一つでも多く実施されることを望まれる。

▼おわりに

本ネットワークは、主体の垣根を越えたゆるやかな連携を「仕組み」として維持していかうという試みである。環境学習の一層の推進のためには、各主体（企業・行政・NPO・学校・社会教育施設・県民等）が無理なく継続的に取り組むことができる機運や仕組みの醸成が大切で、「連携」はそれを支えるキーワードの一つであると考えられる。本ネットワークの成果の一つは、この場での出会いが実際に連携事例として花開き、その学習プログラムの参加者にプラスの行動変容がもたらされた時であるといえる。そして、ここ数年、そうした事例が各地で生まれているという情報も得られている。引き続き、県内各地で他主体連携型の環境教育が発展していくことを期待したい。



【東部会場の様子】



【中部会場の様子】



【西部会場の様子】

以上